

講演

前広島県警察歯科医会の活動 —警察行政との協力体制の構築と展望—

本山智得

●抄 録●

大規模災害の発生に際し、身元不明者のご遺体を一刻でも早くご遺族のもとにお返しすることは非常に重要である。口腔内（歯牙状態）は遺体の状態に左右されることが少なく、比較的長期間その状態を維持していると言われており、この点からも身元不明者の確認手段として歯科の役割は大きい。東日本大震災の際、歯科医師の活躍により多数の身元が判明したことは記憶に新しく、このことは歯科情報を活用することの有効性を実証するものである。今後、大規模災害の可能性も囁かれる昨今、こういった身元確認を迅速に行うためには警察行政との協力・連携が不可欠であり、平時からの協力体制および信頼関係の確立が重要となる。本会では、警察行政との協力体制を構築するために様々な取り組みを行っており、その一端をお伝えできれば幸いである。

本会では昭和61年に発足以来、警察歯科医会役・委員会、幹事会をそれぞれ年2回開催し、広島県警本部長を始め捜査一課の方々にご参加を頂き、事業計画や情報交換ならびに協力体制の強化を図っている。

平成28年度は、デジタルペンを用いたデンタルチャート作成の実習を行っており、一昨年8月、広島で発生した広島土砂災害を踏まえ、広島大学病院救命救急部の協力のもと災害衛星通信車やドローンも投入し、死傷者の救助に始まり、医師・歯科医師が役割を分担し、遺体の状態の記録やデンタルチャートの作成を行ったことも有意義な訓練であった。このような実際を想定しての訓練は、警察歯科医の高い士気を維持するためには必要不可欠であると思われる。身元確認技術の更なる向上のため毎年開催する研修会は、県警・海上保安本部・警察協力医がそれぞれ別々に実習を行うのではなく、3者がそれぞれチームを組み、有事の際と同様に役割分担を決め、シミュレーションをしながら訓練を行い、火急の有事の際にもスムーズに役割分担をしていけることに重点的に実習に取り組んでいるところに特色がある。

また大規模災害発生時に、広島県歯科医師会と広島大学病院（歯科領域）が互いに協力し円滑な身元確認活動が可能となるよう、昨年、「災害時の身元確認活動に関する協定書」を締結し、発災時には大学病院からも身元確認における協力体制をとれるよう整備を行っている。

本会では現在までに、広島県警や広島大学と非常に良好な協力関係を築けており、今後とも様々な研修会等を通してさらにそれを強固なものとしていければと考えている。

キーワード：身元確認、警察歯科医会、研修会



※冬期学会講師

（もとやま・ともとく）
広島県警察歯科医会専任理事
医療法人本山歯科医院理事長
ICDフェロー

I. はじめに

大規模災害の発生に際し、多くの身元不明者のご遺体を一刻でも早くご遺族のもとにお返しすることは非常に重要である。口腔内とりわけ歯牙状態は遺体の状態に左右されることが少なく比較的長期間その状態を維持していると言われており、この点からも身元不明



図1



図2

者の確認手段として歯科医師の役割は大きい。東日本大震災の際、歯科医師の活躍により多数の身元が判明したことは記憶に新しく、このことは歯科情報を活用することの有効性を実証するものである。今後、南海トラフ地震発生の可能性も囁かれる昨今、こういった身元確認を迅速また的確に行うためには警察行政との協力・連携が不可欠であり、平時からの協力体制および信頼関係の確立が重要となる。全国に先駆けて、広島県警察歯科医会では警察行政との協力体制を構築するために様々な取り組みを行っており、その一端をお伝えした。

II. 研修会

昭和60年秋、群馬県下の日本航空機墜落事故を教訓に広島県警から広島県医師会に連絡協議会の発足を呼びかけ、さらに警察との連携に前向きであった広島県歯科医師会との連携を図り昭和61年に本会が設立された。広島県警察歯科医会では昭和61年に発足以来、毎年警察歯科医会役員会、幹事会をそれぞれ年2回開催し、広島県警本部長をはじめ刑事部長ならびに捜査一課、検視官室の方々にご参加を頂き、事業計画の確認、情報交換や死体取扱い状況などの報告を行い、協力体制の強化を図っている。広島県内にある28か所の所轄警察署に各2名の毎年開催されている研修会に参加している警察歯科協力医を配置して常日頃から出動態勢の準備も整い、平成29年度から警察歯科特別研究班に女性歯科医師も配置している。

事業計画に基づき高い練度の身元確認技術の更なる向上のため毎年開催している実習付の「警察歯科研修会」は、必ず広島県警、海上保安庁、警察協力医が参加し災害時や犯罪捜査上での検案にまつわる事案を想定し、研

鑽を積んでいる。またこの研修会は、県警・海上保安庁・警察協力医がそれぞれ別に研修・実習を行うのではなく、3者がそれぞれチームを組み、有事の際と同様に役割分担を決めて、シミュレーションをしながら訓練を行う点にあり、火急の有事や事件の際にも慌てることなくスムーズに各自の役割を理解し実務にあたることに重点を置いた実習に取り組んでいるところが特色である。平成26年度には、広島大学医学部法医学教室のご協力ならびに研修会の主旨を高く評価して下さったご遺族のご協力のもと、実際のご遺体を用いて検案ならびにデンタルチャートの作成の実習を行っている(図1、2)。平成27年度には毎年の研修会とは別に、大規模災害が発生した場合の訓練として広島県警・広島県医師会と連携した「大規模災害初動訓練」を行い、警察犬も投入した死傷者、負傷者の救助に始まり、負傷者は病院搬送、死亡者については医師が死亡診断後に医師・歯科医師が役割分担して、遺体の状態の記録やデンタルチャートの作成を行うなど有意義な訓練であった(図3、4)。平成28年度からはデジタルペンを用いたデンタルチャート作成実習も取り入れた(図5、6)。平成26年度に発災した「広島土砂災害」を踏まえ、広島大学病院救命救急部の全面的な協力のもと、同救命救急部所有の災害衛星通信車やドローンを投入した実習付研修会を開催した(図7、8)。広島県警のご配慮により県警機動隊グラウンドを特別に使用させていただき、死傷者の発見をドローンで確認、広島大学病院DMATと県警による死傷者確認後に大型ドローンによる医薬品・AED搬送、救助活動の行い、死亡者の県警による検案作業、その後に警察協力医によるデンタルチャート作成を行った(図9～11)。このような実際を想定しての訓練は、警察歯科医の高い士気を維持するために必要不可欠であると思われる。



図3



図4



図5

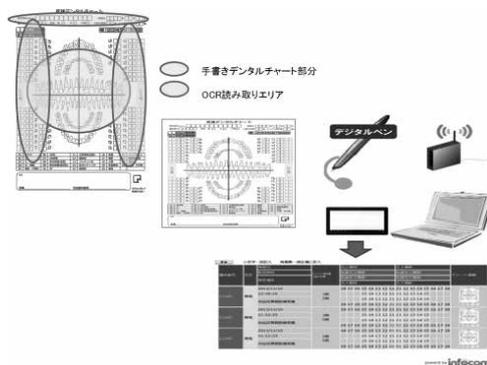


図6



図7



図8



図9



図10



図11



図12



図13



図14

Ⅲ. 装備

これまでの警察歯科医会特別研究班の出動服はあったが、使用購入は各自の自由であった。平成23年度より出動服を一新して、災害地派遣・各所轄警察署での検案時に「広島県警察歯科医会」と身分確認もできるような帽子・出動服・ベストを作成し全委員に配布を行った(図12)。出動服・ベストまた同時に警察歯科医会の身分証を作成して出動の際には必ず携帯表示をするように義務づけている(図13)。29年度には協議会や役委員会に出務する際の胸章「警察歯科会バッチ」も作成、警察歯科医会役委員に全員に配布している。また警察歯科医会役員の診療室または自宅に衛星携帯電話、広島市行政から無償貸与されているIP無線を配備している(図14)。また広島大学病院救命救急部のご厚意により頂いたデジタルペンを常に検案事例に活用させていただいている。

Ⅳ. その他の活動

当然であるが日常ある身元不明のご遺体(病死、不

審死など)県警からの依頼によるデンタルチャート作成も行い、いつ何時にも出務する体制を整えている。

広島空港に飛行機が墜落した事を想定し、空港周辺3地区の歯科医師会が中心となった「広島空港周辺警察・歯科医会」を毎年開催し警察歯科医会から講師を派遣し講演を行っている。この会は約20年前より発足しており、広島県警・警察協力医および広島空港周辺3地区歯科医師会の一般会員を含めて研修会を行っている。

また検視官を対象とした警察学校における「法医学専科」の講師を警察学校で行っている。広島県・広島市が毎年行う「総合防災訓練」にも積極的に参加し行政諸機関との連携を確認している(図15、16、17)。東日本大震災や広島土砂災害などの災害に鑑み、今後の南海トラフ地震等広島県における大規模災害発生時に、広島県歯科医師会と広島大学病院(歯科領域)が互いに協力し円滑な身元確認活動が可能となるよう、昨年、「災害時の身元確認活動に関する協定書」を締結し、発災時には大学病院からも身元確認における協力体制をとれるよう整備を行っている。



図15



図16



図17

広島県警察歯科医会では現在までに、広島県警や広島大学と非常に良好な協力関係を築けており、今後とも様々な研修会等を通してさらにそれを強固なものとしていければと考えている。

V. 最後に

広島県警察歯科医会では、これまでの活動に関して平成26年に広島県警、平成27年に中国管区警察局から感謝状をいただいている（図18、19）。現在、歯科における身元確認は、身元不明者の警察による死体検案

終了後、デンタルチャートに口腔内の状態の記録を取り、生前資料と照合を行うことで正確な鑑定書を作成することにより行われている。

しかしながら、歯科情報は個々の歯科医院・病院が個別に情報を保持しており、大規模災害・事故・事件が発生した際、データバンクとして重要であることは明らかであるものの、全体として組織的に整備されておらず情報の保全も十分でないと思われる。

厚生労働省が「歯科情報の標準化」を検討している中、広島大学大学院救急医学教室ではデジタルペンをを用いたトリアージ共有システム（インフォコム株）を開発し、災害時での救急医療現場での活用を考えている。そのデジタルペンをデンタルチャートに活用することにより、警察・医療機関・行政諸機関と情報を共有できるシステムが構築できれば、身元不明者の個人の検索や絞込みが素早くできるようになるとと思われる。現在本会は広島県警や広島大学と非常に良好な協力関係を築けており、今後とも様々な研修会等を通してさらにそれを強固なものとしていければと考えている。

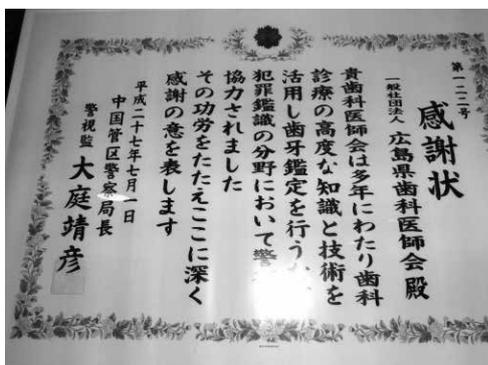


図18

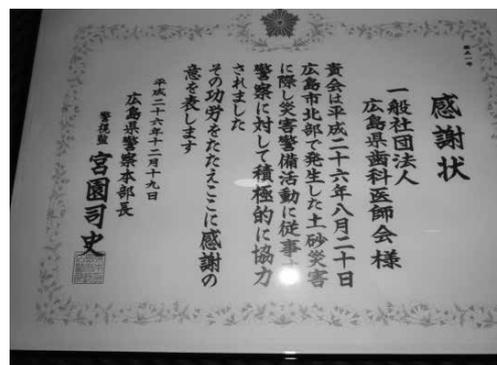


図19

Activities of Police Dental Association in Hiroshima Prefecture

Tomotoku Motoyama, D.D.S., Ph.D., F.I.C.D.

In the event of a large-scale disaster, it is significantly important to identify the bodies of disaster victims and return them to their families as soon as possible. As the inside of the mouth and condition of the teeth usually remain stable for a relatively long period of time, regardless of the condition of the body, dentistry fulfills an important role in identifying bodies. Following the Great East Japan Earthquake, dentists helped identify a large number of bodies, which supports the validity of using dental information in such situations. As large-scale disasters are expected to occur in the near future, establishing cooperative relationships with the police prior to the occurrence of disasters is essential for dentists to be able to collaborate with police to quickly identify bodies. The following explains some of what we have done to establish cooperative systems with the police:

The International College of Dentists Japan Section, established in 1986, holds board meetings for the association for dentists working for the police twice a year, inviting the head of Hiroshima Prefectural Police Headquarters and members of the First Criminal Investigation Department to develop project plans, exchange information, and promote the cooperative systems.

In 2016, training was conducted to create dental charts using digital pens. In the simulation training, which was implemented with the support of the Critical Care Department of Hiroshima University Hospital, and included satellite communication vehicles for disasters, drones, and was based on the landslides that had occurred in August 2014 in Hiroshima, physicians and dentists practiced providing critical care for casualties, recording the conditions of bodies, and creating dental charts. Such simulation training sessions are essential for maintain a working relationship between dentists and the police. Annual workshops held to help participants improve their identification skills are characterized by simulated joint training in which members from Hiroshima Prefectural Police, the Maritime Safety Headquarters, and physicians who help the police identify bodies organize into teams, rather than undergoing training separately, and fulfill the roles assigned in the event of a disaster. Through this training, they will be able to implement their tasks smoothly in emergency situations.

Furthermore, the Hiroshima Prefectural Dental Association and Hiroshima University Hospital (dentistry) entered into an “Agreement on Identification Activities in the Event of Disasters” last year to help the university hospital develop cooperative systems for identification and to collaborate with the Hiroshima Prefectural Dental Association.

The International College of Dentists Japan has maintained positive relationships with Hiroshima Prefectural Police and Hiroshima University, and hopes to further enhance them through a variety of workshops.

Key words : Victim Identification, Police dental association, Workshop